令和３年度（2021年度）

子ども☆ミライ会議 報告書

「2040年の八王子」

～八王子はわたしたちがつくるまち～

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

目　次

1　「子ども☆ミライ会議」2040 年の八王子
　～八王子はわたしたちがつくるまち～の実施について

2　ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」と子どもの意見

3　令和３年度（2021 年度）の「子ども☆ミライ会議」のスケジュール

4　参加者募集（子ども企画委員）

5　第１回子ども企画委員ワークショップの様子

6　第２回子ども企画委員ワークショップの様子

7　「子ども☆ミライ会議」2040 年の八王子
　～八王子はわたしたちがつくるまち～の様子

8　「サテライト子ども☆ミライ会議」の様子

9　子どもによる意見表明の各児童館の取り組み
「児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

10　子ども企画委員の感想と代表のあいさつ

11　子ども企画委員の提案意見

１「子ども☆ミライ会議」
2040年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～の実施について

平成13年９月に「八王子市子どもすこやか宣言」の普及啓発事業として「子ども会議」を開催しました。子どもの意見表明権を具体化するために、子どもが、主体的に意見を述べ、まちづくりの活動に参加できる機会を確保することを目的としました。

その後、八王子市の関係機関と子どもの意見を尊重した居場所である児童館とが協力し「子ども会議」、「子ども議会」を開催してきました。

会議のファシリテートを行う市内の児童館は、子どもの権利を大切にし、子どもの意見を尊重した児童館運営をしています。子ども企画委員の中には、児童館の利用者を代表して継続して参加している子どもがいます。

「子ども会議」は、地域住民と団体、学生の協力を得て、「わたしたち・ぼくたちの考えるまちづくり」として、地域子ども新聞作りや地域マップ作り、遊び場と遊び体験の取り組みを行いました。

「子ども議会」は、子ども議員が、学生サポーターとともに、テーマ別に取材を行い、市長と議場で質疑応答を展開しました。

以後、「子どもミーティング」、「子ども意見発表会」、「子ども☆ミライ会議」と形式や名称を変えて実施してきました。

【宣言の発表の様子】（平成29年度）

子どもたちは、子ども施策の学習会や農業体験、浅川探検、遊び場視察、防災体験など、体験形式のワークショップやミーティングを行い、まちづくりについて考え、提案をしてきました。

現在、開催している「子ども☆ミライ会議」は、平成29年度（2017年度）に市制100周年記念事業の基幹事業である「ビジョンフォーラム」の最後を飾った「子どもミライフォーラム」において、子どもが策定したミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を具現化するために実施してきました。

令和２年度（2020年度）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン開催となりましたが、令和３年度（2021年度）は、対面での開催をすることができました。

しかし、参加者の人数制限を行うため、若者のまちづくりへの参画を推進し、子どもとともに活動する学生サポーターの参画は見送ることになりました。

２　ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」と子どもの意見

（1）ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」

「八王子はわたしたちがつくるまち」

① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち

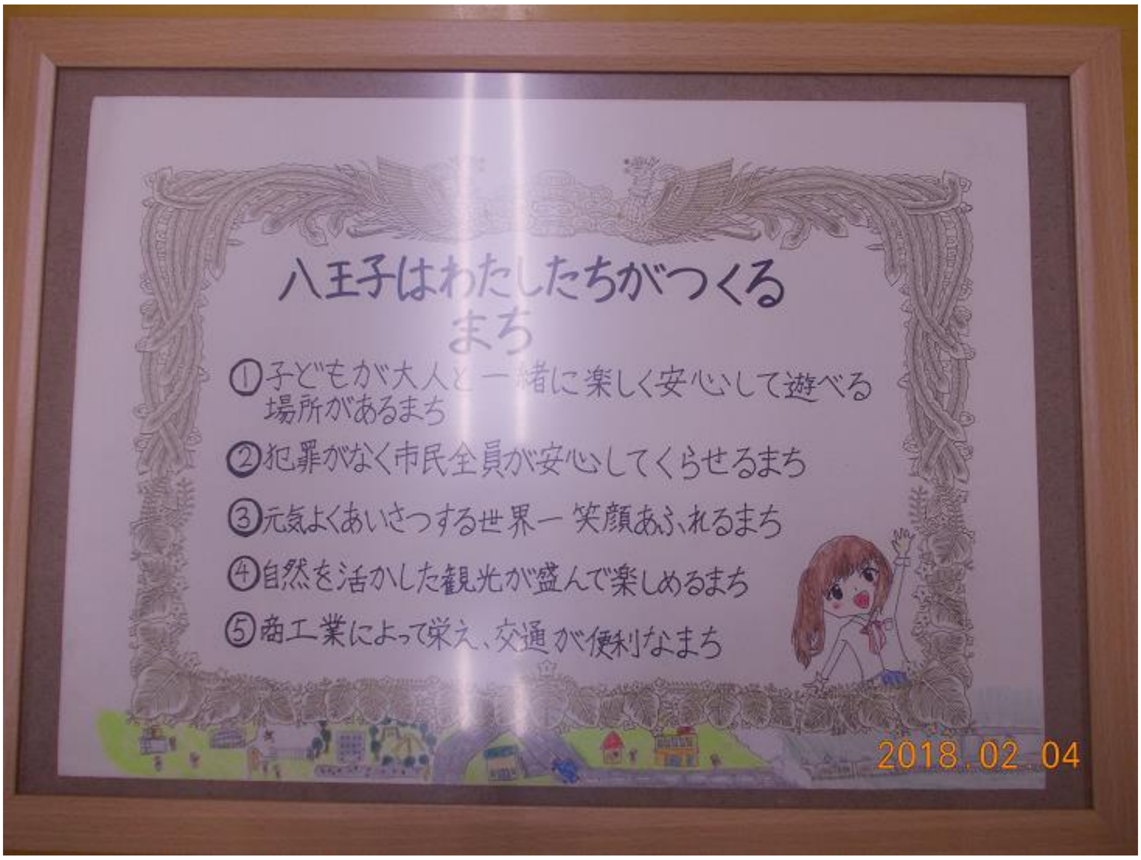
② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち

③ 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち

④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち

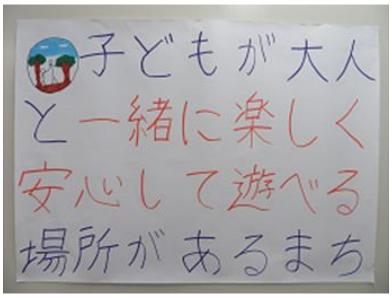
⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成 30 年２月４日　子ども☆ミライ会議　子ども大使一同



（２）提言に対する子どもの意見

①　「子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち」



大人も子どもも安心して遊べる大きい公園、アスレチック公園があるといいと思います。

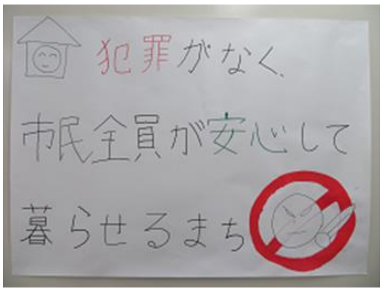
八王子市にはたくさんの自然があり、公園もたくさんあります。

その自然を最大に活かして、公園の中に図書館や大人と子どもが一緒に過ごすことのできるカフェやアスレチックなど、体を自然の中で動かすことのできる公園があるといいと思います。

私たちは、子どもたちが楽しく安心して遊べるようにするため、大人に頼るだけではなく、時間がある時には公園で遊んでいる子どもの見守りに取り組みます。

また、子どもは自分の近くの公園しか知らないので、八王子市の公園や自然のアピールを積極的にしてほしいと思います。

②　「犯罪がなく子どもが安心して暮らせるまち」

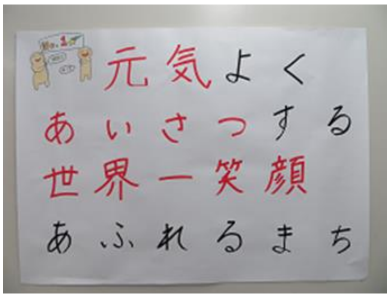


不安な中では、子どもは地域に自由に出ていき、地域の大人と交流することができません。

そのために私たちは、地域の危険なところを知り、それを地域の人に伝え、子どもたちへの呼びかけやパトロールに地域の大人と一緒に取り組みます。

また、子どもから高齢者までが、段差をなくして、スロープにするなど住みやすい環境を作るとともに、顔を知り互いに交流できる市民の憩いの場を作ってほしいと思います。

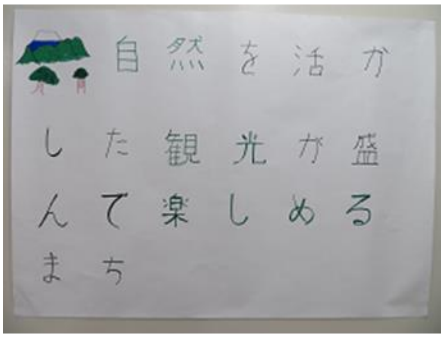
③　「元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち」



八王子のまちは、人と人との交流が大切にされるまちになります。そのために私たちは、はずかしがらずに地域の人に、「おはようございます」などとあいさつをして、自分から積極的に人との交流を大切にすることに取り組みます。

また、人の交流と笑顔があふれるように、新しいことを始めるのではなく、八王子にある豊富な資源を有効活用して、映像や情報誌でＰＲし世界に発信します。

④　「自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち」



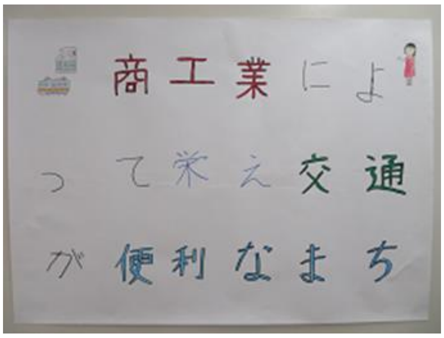
自然を活かし、観光で人を他地域から呼んでまちの活性化を図ります。

そのためには、子どもの目線で、八王子の良いところや歴史深い街並み、著名人、緑豊かな自然を全面的に伝えるために、プロジェクトを組んで活動に取り組みます。

そして、観光が盛んになるだけではなく、子どもから高齢者まで、安全に過ごせるバリアフリーが当たり前のまちになります。

また、自然を活かしたきれいなまちであり続けるために、クリーン活動、自主的なごみ拾い、ごみの分別をしっかりするなどして環境を壊さない活動をすることに取り組みます。

⑤　「商工業によって栄え、交通が便利なまち」



八王子のまちは、子どもと企業が深くかかわる機会があるまちになります。

そのために私たちは、公共交通機関を利用し、八王子市の商店街で買い物をすることに取り組みます。

また、公共交通機関の発達は子どもや高齢者の移動に有効で、人と人の交流が図られることにもつながります。

私たちが、地元の産業や中小企業の技術力を子どもたちに宣伝し、さまざまな職種の人と話しをして将来の道を考えていきます。

生活と仕事が密着したことにより住みよいまち、住み続けたいまちになると思います。

３　令和３年度（2021 年度）の「子ども☆ミライ会議」のスケジュール

７月～10月	・児童館を利用する子どものアンケート調査、パネル作成
９月15日（水）～ 10月12日（火）	・子ども企画委員募集
申し込み完了～ 10月24日（日）	・自宅事前学習 「2040年の八王子がどのようなまちになっているか」をテーマに原稿を作成
10月24日（日）	・第１回子ども企画委員ワークショップ開催
10月24日（日）～ 11月28日（日）	・自宅事前学習 本番の提案原稿案を作成
11月28日（日）	・第２回子ども企画委員ワークショップ開催
12月12日（日）	・「子ども☆ミライ会議」開催
令和４年（2022年） ２月27日（日）	・「サテライト　子ども☆ミライ会議」開催
３月26日（土）	・「サテライト　子ども☆ミライ会議」開催

４　参加者募集（子ども企画委員）

小学５年生から高校生世代までを対象に、ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を具現化するために、実践案を検討し発表をする子ども企画委員を募集しました。

20 名（小学５年生７名、小学６年生１名、中学１年生９名、中学２年生２名、高校２年生１名）の参加がありました。

【「子ども☆ミライ会議」２０４０年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～】

子ども企画委員を大募集！

「八王子市子どもすこやか宣言」の推進事業の一環として、子どもの声や意見を受け止め、市政に反映するために「子ども☆ミライ会議」を開催します。

平成 30 年（2018 年）2 月 4 日に、市制 100 周年記念事業として開催した「子どもミライフォーラム」で子ども企画委員が、子どもミライ提言を発表しました。

2040 年の八王子へ向けたまちづくりについて、市長・教育長に提案を行う小学 5 年生から高校生世代までの子どもたちを募集します。

子どもミライ提言『八王子はわたしたちがつくるまち』

①子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち
②犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち
③元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち
④自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち
⑤商工業によって栄え、交通が便利なまち

平成 30 年２月４日　　子ども☆ミライ会議　子ども大使一

【プログラム】

① 令和 3 年（2021 年）10 月 24 日（日）第 1 回ワークショップ
時間：午前 10 時～正午　会場：市役所 802 会議室
●オリエンテーション～八王子市について学ぼう～
●意見交換～2040 年の八王子について考えよう～

② 令和 3 年（2021 年）11 月 28 日（日）第 2 回ワークショップ
時間：午前 10 時～正午　会場：市役所 801 会議室
●提案書の作成～本番で発表する発言をまとめよう～

③ 令和 3 年（2021 年）12 月 12 日（日）リハーサル、「子ども☆ミライ会議」本番
時間：午前 11 時～午後 3 時　会場：市役所 801．802 会議室
●リハーサル、「子ども☆ミライ会議」本番～市長・教育長への提案をしよう～

【対　　象】小学 5 年生から高校生世代まで
【定　　員】20 名
【申込期間】令和 3 年（2021 年）9 月 15 日（水）～10 月 12 日（火）
【申込方法】川口児童館に電話連絡し、子ども☆ミライ会議申込書」を取得し、提出してください。
【参 加 費】無料（会場の市役所までは実費となります。）
【そ の 他】●ワークショップで使用する筆記具と 1 回の参加につき 500 円分の図書券を用意します。
●できるだけすべてのプログラムに参加してください。
●プログラムの詳細について、申込み後に自宅に送付いたします。

【ワークショップの様子】

【申込み・問合せ先】
八王子市子ども家庭部青少年若者課川口児童館
〒193-0801　八王子市川口町 3974
TEL　654-4757　/　070-1276-9229　　FAX 654-4757

【子ども企画委員募集案内】

５　第１回子ども企画委員ワークショップの様子

【横断幕を掲示する子ども企画委員の様子】

令和３年（2021 年）10 月 24 日（日）、小学５年生から中学３年生までの 18 名が参加し、市役所職員会館で、第１回子ども企画委員ワークショップを開催しました。

児童館の職員と一緒に会場づくりを子ども企画委員が手伝ってくれました。

冒頭に、青少年若者課長が、子ども企画委員に「子ども企画委員カード」を授与しました。

その後、「子ども☆ミライ会議」の開催経緯や今年度の子ども企画委員の役割について学びました。

また、未来デザイン室から「2040 年に向けた八王子市の長期ビジョンの策定」の説明と、日本遺産推進担当から「霊気満山高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」の説明を受け、八王子にある歴史や自然について学び、提案原稿づくりの参考にしました。

その後、５グループに分かれて、子ども企画委員が事前学習に取り組んできた内容を発表し合いました。「2040 年の八王子がどのようなまちになっているか」をテーマに自分の意見をまとめる課題でした。

【意見交換の様子】

自信をもって自分の意見を発表し、他の子ども企画委員の意見に対して質問し意思の疎通を図りました。

はじめは緊張していた様子でしたが、しばらくすると、打ち解けて、話が盛り上がってきました。

短い時間でしたが、子ども企画委員の八王子のまちに対する思いと「子ども☆ミライ会議」への期待が高まる有意義な時間となりました。

ワークショップの最後に、ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」の５つの提言について担当グループ分けをしました。

また、次回のワークショップで市長・教育長に発表する提案原稿案を各自で作成する事前学習の提示がありました。

６　第２回子ども企画委員ワークショップの様子

【意見交換の様子】

令和３年(2021 年)11 月 28 日(日)、子ども企画委員 17 名が参加し、市役所８階会議室で、第２回子ども企画委員ワークショップを開催しました。本番に使用する市長・教育長への意見発表用原稿をつくり上げました。

前回のワークショップから１か月が経過していたため、前回の振り返りから始まりました。

その後のワークショップでは、ミライへ提言「八王子はわたしたちがつくるまち」の５つの提言にあわせて各子ども企画委員が希望したグループに分かれて討議が行われました。

事前学習で作成してきた提案内容を発表し、グループ別に提言内容をまとめていきました。

「2040 年の八王子のミライの姿を想像し、子ども企画委員がまちづくりに責任をもって参加していくこと」を念頭に置きながら、論点がずれないように検討しました。

【児童館の子どもたちの意見】

前回に各子ども企画委員が発表した意見と７月から 10 月にかけて取り組んだアンケート「児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」の結果も参考にしました。

児童館を利用する小学生から高校生世代までの多くの子どもの意見も取り入れて検討しました。

同じ提言でも多様な意見があり、グループとして提案をまとめ上げることに、話し合いの多くを費やしました。討議の中では上級学年がリードし小学生からの意見も丁寧に共有していました。

次の作業として、自分たちで意見発表するための発表原稿の作成、プレゼン用資料作り、発表者の役割分担など、当日に向けて話し合いを進めました。

あとは本番を待つだけとなり、当日のリハーサルは本番前に子ども企画委員全員で確認することにしました。

７　「子ども☆ミライ会議」
2040 年の八王子～八王子はわたしたちがつくるまち～の様子

令和３年（2021 年）12 月 12 日（日）に、小学５年生から高校２年生までの 18 名が参加し、市役所 801 会議室で、「子ども☆ミライ会議」を開催しました。

今年度は 2040 年のミライをイメージしながら、２回のワークショップで話し合いを重ねました。

ミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」の５項目について、グループごとに具体的な案をまとめ、市長・教育長に向けて提案をしました。

【意見交換中の市長・教育長】

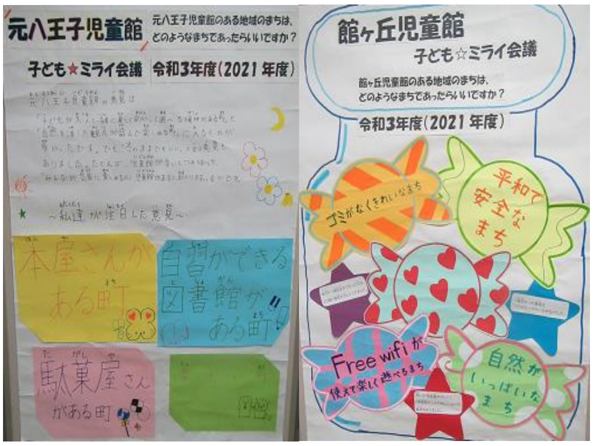
【自信を持って意見を表明】

子ども企画委員の発表後、市長・教育長からの答弁を基に「ＹＥＳ・ＮＯカード」を使って、子ども企画委員の体験や提案理由などにも踏み込み、内容の濃い意見交換が行われました。

自分たちのまちである八王子への熱い思いをどの子ども企画委員も堂々と発表していました。

会場内には、各児童館の子どもたちが作成したパネルを展示しました。

児童館を利用する子どもたちに「児童館のあるまちがどのようなまちであったらいいですか？」というアンケートを取り、その結果をミライへの提言「八王子はわたしたちがつくるまち」の５項目に分類したパネルです。



【児童館作成のパネル】

来場した学校長や保護者の方々は、パネルに熱心に目を向けていました。

８　「サテライト子ども☆ミライ会議」の様子

「子ども☆ミライ会議」で提案された子ども企画委員の意見を活かしたまちづくりを推進する上で、子どもの提案を尊重し、具現化することが重要と考えています。

そこで、子ども企画委員が提案した駄菓子屋の設置について、興味を持った団体「まほうのほうき」の２名と子ども企画委員３名が、令和４年（2022 年）２月 27 日（日）午後１時から２時半まで、「サテライト子ども☆ミライ会議」を開催しました。

団体「まほうのほうき」が、住宅１階の空きスペースに、大人も子どもも楽しめ集まる駄菓子屋をイメージした空間「まほうのおうち（仮称)」を開設するにあたり、運営者と子ども企画委員が意見交換を行いました。

子どもが思う駄菓子屋を中心にした人の交流やまちの活性化について、多様な意見が出されました。

【意見交換の様子】

（子どもの意見）

・駅に近いので集まりやすいが、駐輪場が必要だと思います。
・駄菓子屋のスペースにゲーム・カードゲームで遊んで過ごすことができるような大きなテーブルがあると、子ども同士で交流ができます。
・中学生や高校生世代など若い世代が集まるためにはフリーWi-Fi 環境が必要だと思います。
・小学生や中学生は、将来の色々な話が聞けるので、大学生などが運営メンバーになるとリピーターとして集まりたくなると思います。
・子どものリクエストを聞いて、色々な種類のお菓子を用意すると、子どもが来るようになると思います。
・お菓子を買って、その場で遊ぶような景品などもあると子どもの居場所となると思います。
・自分のお店というイメージが持てるので、お菓子を買うだけではなく、仕入れや販売などの経験もできると良いと思います。

駄菓子屋をイメージした空間「まほうのおうち～yottette（よってって）～（仮称）」がプレオープンをすることになり、現地視察として、令和４年（2022 年）３月 26 日（土）に「サテライト子ども☆ミライ会議」を開催しました。

「子ども☆ミライ会議」の子ども企画委員の中学生２名が友人とともに駄菓子屋を見学し、運営者と意見交換を行いました。

子ども企画委員は、令和４年（2022 年）２月 27 日（日）の「サテライト子ども☆ミライ会議」における意見交換の際に、駄菓子屋の図面を見ながら話を聞き、イメージを膨らませてきていたので、熱心に運営者と意見を交わしていました。

駄菓子屋の店舗スペース、子ども食堂や高齢者のサロンとなる部屋、バックヤードの調理場所、駐輪場やウッドデッキが設置されるスペースも見学しました。

運営者は、子ども目線の意見は大変に参考になり、子どもの意見を尊重した居場所づくりに取り組んでいきたいと話していました。

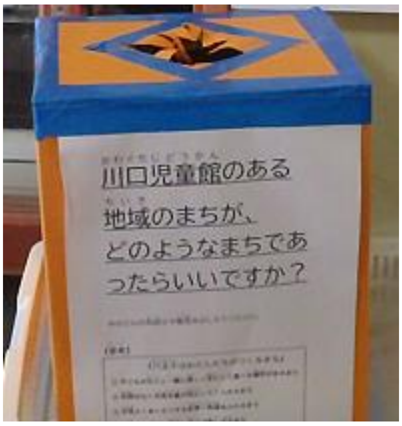
（子どもの感想）

・JR 八王子駅南口の通りから路地に入った場所なので、探してたどり着くのに大変でした。
・民家を改装すると聞いていたので、もっと茶色いイメージかと想像していたが、外壁はウッドベース調の壁、駄菓子屋スペースは、白いさわやかな壁面にかわいいペイント（子どもの描いたイラスト）があって、想像以上にかわいくて愛着が持てました。
・お菓子を置く棚は、低い棚から高い棚まで設置されていて、幼児の手が届くところにお菓子が置いてあり、子どもには使いやすいと思いました。
・お菓子に値段入りの色のシールがついていて、色で値段がわかるので子どもには楽しく買い物ができると思いました。
・今後、子どもの意見を聞いて、お菓子の品揃えもする予定だというので毎回来るのが楽しみです。
・買い出しや仕入れ、品出し、お会計の手伝いも経験したいです。決まった日や時間を指定されると中学生は忙しいので、自分たちが駄菓子屋に来たときに手伝わせてもらえると楽しいと思います。
・自転車置き場を考えてくれ、品揃えのことも自分たちが提案したことが活かされていたのがとてもうれしかったです。

<u>９　子どもによる意見表明の各児童館の取り組み</u>
<u>「児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」</u>

児童館は、「児童の権利に関する条約」に掲げられた精神及び「児童福祉法」の理念にのっとり、子どもの心身の健やかな成長、発達及びその自立が図られることを地域社会の中で具現化する児童福祉施設です。

児童館は、あらゆる場面で最善の利益が保障されるように子どもの権利を大切にする取り組み進めています。



【意見ボックス】

また、児童館は、子どもの年齢及び発達の程度に応じて子どもの意見が尊重されることを大切にし、活動や地域の行事に子どもが参加して自由に意見を述べることができるように子どもによる意見表明機会の提供に努めています。

子どもの自発的な活動を作り上げることができるように継続的に支援し、子どもの視点や意見を児童館の運営や地域の活動に活かしています。

「子ども☆ミライ会議」と児童館の居場所における意見表明機会の取り組みを毎年実施し、児童館の子どもの意見も「子ども☆ミライ会議」を通じて報告をしています。

令和３年度（2021 年度）は、７月から 10 月の期間で、地域のミライについて考え、「○○児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」とのテーマで意見集約やアンケート調査を行いました。

各児童館で意見ボックスを設置し、意見を用紙に記入して入れてもらいました。小学生低学年には、聞き取りをしたり、職員が代筆をしたりするなど年齢や発達に応じて意見集約をしました。

各児童館の子どもの意見や声は、子ども企画委員に紹介し、ワークショップにおいて、参考意見として提案内容を検討しました。

また、各児童館で聞き取った意見は、児童館を利用する子どもが結果について意見を出し合い、模造紙の大きさのパネルを作成し、令和３年（2021 年）12 月 12 日（日）に開催した「子ども☆ミライ会議」の会場で掲示しました。

【パネル】

「浅川児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　浅川児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
9月1日～10月31日	24人	0人	8人	16人	0人

来館する子どもたちにアンケートの趣旨を説明後、アンケート回答ボックスを用意して、興味を持ってくれた子どもが回答してくれました。

回答結果から、回答の多くを占めたものは「きれいなまち」、「ゴミのないまち」のように、過ごしやすいまちを求めるものでした。

具体的な施設名などを求める回答のほか、「やさしいまち」のように抽象的な回答もありました。

＜パネル作成の様子＞

浅川児童館では、アンケートで多く出た意見を抽出し、パネルを作成する方針にしました。

パネルの作成を手伝ってくれないか、子どもたちに声をかけたところ、イラストや装飾の得意な小学生高学年の女子が、友達同士で参加してくれました。文字を見やすく、かつ印象的に書くにはどうしたらよいか、みんなで相談して作成していました。特に、色使いには工夫を凝らし、最終的には温かみのある雰囲気のパネルに仕上がりました。

「中郷児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　中郷児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
10 月 1 日～10 月 30 日	18 人	0 人	0 人	18 人	0 人

質問の内容が抽象的で学年によっては職員と相談しながら、意見にしていきました。回答した学年層の幅は広く、具体的な施設名が入るなどの内容から「安全・安心」のような抽象的な内容まで様々でした。

その中でも「いじめがない」、「悪口をいわない」など子どもにとって「身近で安心して過ごせるためには」といった課題を取り入れた意見が多くありました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を経験し、急激な社会の変化の中で子どもたちにとって「安心して過ごしたい」という思いがアンケート結果から感じられました。

＜パネル作成の様子＞

パネルの作成を希望した子どもが、アンケートで子どもたちが出した意見の中から、興味のある意見をいくつか選びました。

大人数での活動とならないように工夫をして、パネルに掲載する内容をパーツごとに分けて、数日かけて作成しました。

「中野児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　中野児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
9月21日～9月30日	52人	9人	3人	40人	0人

利用者がすぐにわかるように、玄関正面に高校生が作ったアンケートボックスを設置しました。

アンケートのお願いのポスターは、中学生が一緒に作成してくれました。

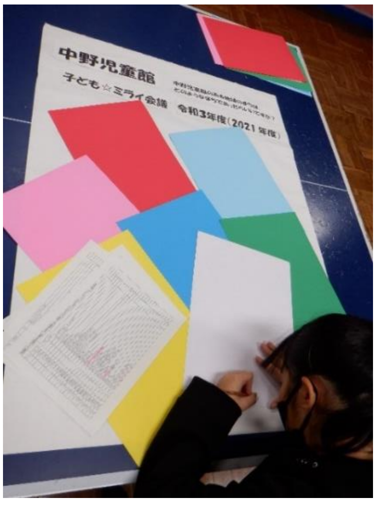
「どのようなまちがいいか」という問いに対し、「〇〇があるまち」というよりは、「いじめがない」、「ゴミがない」という、マイナスイメージのものがなくなってほしいという意見が多くみられました。

また、低学年の間で「最強王図鑑シリーズ」が流行っているためか、架空の生き物を望む声がいくつか寄せられていて、自由で夢のある発想が中野の地域らしいと思いました。

＜パネル作成の様子＞

パネル作成をしてくれる中学生、高校生の都合があわなかったので、おおまかなレイアウトを中学生が考え、高校生はそれに載せるイラストを描いてくれました。

仕上げをしているところへ、小学生も加わり、「緑が多く、自然な感じにしよう」と意見がでて、色画用紙で木を作り、森の感じを出して仕上げました。



「南大谷児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　南大谷児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8 月 30 日～10 月 30 日	19 人	3 人	4 人	12 人	0 人

ロビーにポストを設置したり、来館した子どもたちに職員が声をかけたりして、アンケートに協力してもらいました。

頻繁に児童館に来館する子どもを中心に記入してくれましたが、テーマが抽象的だったため何を書いていいのか分からず、興味があっても記入に至らない子どももいました。

ミライ提言「八王子はわたしたちがつくるまち」を見てもらうなど説明をして、イメージを膨らませてもらい、子どもたちは自分の意見を考えてくれました。

コロナ禍のため遊ぶ場所が少ないこともあり、「もっと遊ぶ場所がほしい」と思いつく子どもが多いと感じました。

また、学校での取り組みなどから、まちの美化に関心のある子どもが多く、高校生になると、生活や進路に切実に関わる事柄に関心が高いと感じました。

＜パネル作成の様子＞

来館した子どもたちの中でイラストを描くのが好きな小学生が中心となり、アンケート結果を見ながらパネルを作りました。

似た内容をまとめたり、パネルに記載したりするのに相応しい文言になるように考えたりして、職員にも相談しながら一生懸命に作成してくれました。

パネル作成実施日

11/11、11/13、11/19

「北野児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　北野児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8 月 1 日～8 月 31 日	66 人	4 人	16 人	46 人	0 人
9 月 1 日～9 月 30 日	19 人	4 人	0 人	15 人	0 人

児童館に来館した子どもたちに職員が声をかけ、アンケートへの協力をお願いしました。

小学生低学年は何を書いたらいいのかわからないと言いながらも、例を挙げたり、書き方を説明したりすると、一生懸命考えて意見を書いていました。

小学生高学年になると短時間で自分の意見を書ける子どもが多くいました。

遊園地や大きな公園、スポーツ施設などの「遊べる場所」を求める意見も多くありましたが、一番は「街灯や防犯カメラの設置」、「けんかや犯罪のない平和で安心できるまち」を願う意見が多くありました。

また「ゴミのないきれいなまち」、「自然が豊かなまち」という意見も多くありました。「だがしやさん」、「カードゲームのお店」など具体的なお店の名前も挙がっていました。

その他は、「コロナがないまち」とコロナウイルスの収束を願う意見や「今のままでいい」という意見もありました。

＜パネル作成の様子＞

集まったアンケートを職員がまとめて項目ごとに分けました。日頃から来館している小学５、６年生に協力してもらい、色上質紙で電車、バス等の形を作り、その上にアンケート結果を書きました。また、「北野児童館のある地域って何がある？」という問いかけをし、子どもたちは、地域の中の特徴がある絵を描いて完成させました。

「館ヶ丘児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　館ヶ丘児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8月1日～8月31日	11人	5人	0人	6人	0人
9月1日～9月30日	11人	5人	3人	2人	1人

子どもたちがおもちゃを借りに来たときや、休憩しているときなどに、職員が声をかけてアンケートに協力してもらいました。

多かったのは、「自然がいっぱいある」、「ゴミのないきれいなまち」といった意見でした。

もともと緑が多く、季節によってさまざまな草花を楽しめる地域です。

身近にある自然を、子どもたちがこれからも大切にしていきたいという気持ちが表れているのだと思います。

高校生たちは悩んでいましたが、職員が「どんなことでもいいよ」と言うと「フリーWi-Fi がほしい」、「広い体育館がほしい」と意見を書き、のびのびと遊べる場所を、気軽に利用したいようでした。

＜パネル作成の様子＞

高校生がアイディアを出しながら、色合いや見やすさをよく考えて作成してくれました。

お互いの日程が合わず、作業を分担して取り組みましたが、お互いの仕上がりを見て「いいじゃん！」と大変に満足そうでした。

「由木児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　由木児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8 月 2 日～8 月 20 日	90 人	14 人	12 人	64 人	0 人

夏休みに児童館に遊びに来た子どもたちに職員が声をかけて、アンケートに協力してもらいました。

併設の学童保育所の子どもたちにもお願いしました。最初は何を書いたらよいか戸惑っていた子どもも、しだいに真剣に考えて一生懸命、自分の意見を書いてくれました。

「ゴミがないまち」、「犯罪のないまち」、「平和なまち」など、明るいミライを願う意見が多く寄せられました。

さらに、「みんなでたすけあうやさしいまち」など助け合いの意見も多数ありました。

また、コロナ禍であるため、「コロナがなくなってほしい」、「ワクチンがはやくでまわって、コロナの少ないまち」など、新型コロナウイルスの収束を願う意見が多数ありました。

＜パネル作成の様子＞

みんなの書いたアンケートをじっくりと見て、様々な意見をまとめていき、イラストが得意な中学生が中心となりパネル作成をしました。

中学生は、学校が休みの日に児童館に来館し、作業に意識をもって、コツコツと取り組んでいました。

最後の仕上げは、小学生も加わって、イラストを描き、みんなでそれをどこに貼ろうか相談し、和気あいあいとした雰囲気で、できあがったパネルを前に大満足でした。

活動日　8 /20　8 /26

9 / 4　9 /11　9 /18

「松が谷児童館、鹿島分館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　松が谷児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
9 月 22 日～9 月 30 日	82 人	7 人	21 人	54 人	0 人
10 月 1 日～10 月 6 日	30 人	0 人	6 人	24 人	0 人

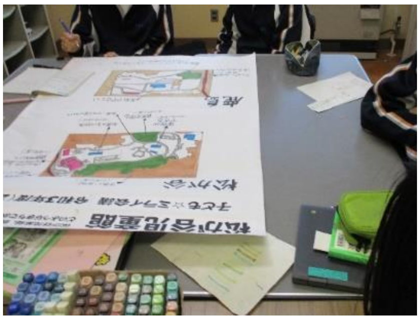
松が谷・鹿島地区に住んでいる子ども 112 人が、アンケートに回答しました。子どもたちは思っていることや考えたことをそのまま言葉にしました。自分の思いを込めて、大きな文字で丁寧に書いた子どももいました。

アンケート用紙には「いっぱい」、「みんな」という言葉、「～がいい」、「～したい」という思いがたくさん書いてありました。

「笑顔がいっぱいあるまち」、「友だちがいっぱいいるまち」、「ともだちやおとながしあわせになるところ」、「今のままでみんなが仲のいいまち」、「みんなでたすけあうまち」、「コロナがないまちがいい」、「ゴミの一つもないまちにしたい」、「おもいやりと笑顔あふれるまちづくりをしたい」などです。

子どもたちは、機会があれば自分たちのまちのことを考えることができるのです。

＜パネル作成の様子＞



松が谷中学校と連携し、生徒会の活動としてパネルを作成しました。

コロナ禍で中学校と連携する活動ができなかったため、児童館から提案したものです。生徒たちは 10 月中旬から、本来の活動に加えてパネル作成にも取り組むことになりました。

初回の活動日にアンケート一覧を渡し、取り組みについて説明しました。

その後、パネルのレイアウトや役割分担について話し合い、アンケートの内容を検討しました。話し合いの結果、松が谷・鹿島の地域を絵で紹介し、その場所に合わせて子どもたちの意見を記入することになりました。２年生たちがメンバーの意見をきちんと聴いて、和気あいあいとした雰囲気で作業を進めました。

「元八王子児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　元八王子児童館

＜アンケート活動の様子＞

（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8 月 1 日～　8 月 14 日	12 人	0 人	2 人	10 人	0 人
10 月 1 日～　10 月 16 日	8 人	0 人	2 人	6 人	0 人

夏休みに児童館に遊びに来た子どもたちにアンケートに協力してもらいました。それぞれの子どもたちは真剣に考えて、一生懸命自分の意見を書いてくれました。

「自分の地域は緑がたくさんあって、公園があって、児童館があるから好き」、「児童館がなければつまんなくなる」、「児童館はみんなが気軽に集まれるから、とても助かります」など児童館に対する意見なども出ました。

＜パネル作成の様子＞

よく来館している小学５、６年生がアンケート結果の様々な意見をまとめて大きく書いたり、絵を描いたり友達と協力しながら楽しく完成させました。

「川口児童館のある地域のまちが、どのようなまちであったらいいですか？」

児童館名　川口児童館

＜アンケート活動の様子＞

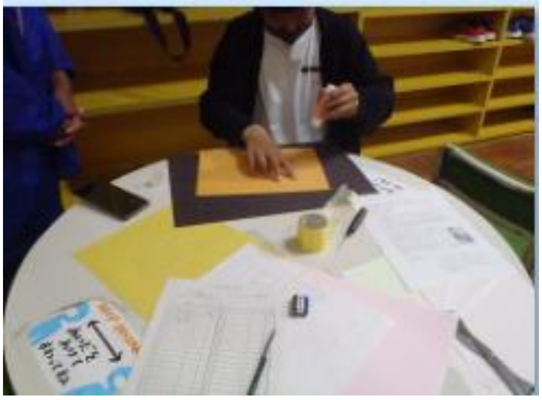
（回答者数）

活動期間	総数	高校生世代	中学生	小学生	幼児
8 月 4 日～8 月 31 日	34 人	4 人	8 人	22 人	0 人
9 月 1 日～9 月 30 日	12 人	0 人	2 人	10 人	0 人

８月から２か月アンケートボックスを設置して、自由に回答しました。「まちが活性化するようなスーパー」、「動物園、遊園地」、「お菓子屋さんなど商観光施設が欲しい」という意見や、「空を自由に飛ぶことができる」、「無料でお菓子が食べることができる場所」など子どもの自由な発想の意見が印象的でした。

ミライ提言に意見を分類	回答数	%
①子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち	17	15.7%
②犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち	18	16.7%
③元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち	16	14.8%
④自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち	17	15.7%
⑤商工業によって栄え、交通が便利なまち	29	26.9%
その他（学校コロナのことが多くありました）	11	10.2%
合計	108	100.0%

＜パネル作成の様子＞



「コンビニが近くにほしい」、「アウトレット・ショッピングモールがほしい」、「遊園地がほしい」「お菓子やがほしい」、「プールがほしい」、「駅がほしい」、「子どもが空をとべるまちがいい」という意見が多かったことを子どもに紹介しました。

その意見をイメージして、子どもたちがイラストを描きました。

10　子ども企画委員の感想と代表のあいさつ

（子ども企画委員の感想）

＊子ども企画委員の感想アンケートから抽出して記載しています。

１．参加した理由を教えてください。

・楽しそうだったから。
・去年、一昨年に引き続き参加しようと思ったから。
・父から案内され、前回参加していて楽しかったから。
・友人から誘われて面白そうだったから。
・今住んでいる八王子の環境を少しでも明るく活気良くしたかったから。
・学校では実現しきれない課題を伝えて叶えるチャンスだと思ったから。
・学校で配布された案内を見て興味を持ったから。
・八王子のことをもっと知って、八王子をもっとみんなに知ってもらいたかったから。
・学校で配布された案内を見て興味を持っていたところ、児童館の先生に誘われたから。
・前から興味を持っていて、一つ目の理由は、私は発表するのが苦手でそれを克服したかったから。二つ目の理由は、八王子をより良いまちにというのがいいなと思ったから。
・市長、教育長に提案できるから。
・現在、高校２年生だが、中学１年生から参加していて、ミライ提言の条文１をずっと発表していたから。
・小学５年生の時にも参加していて、とても楽しかったから。
・学校で配布された案内を見て、八王子のミライを考えられるのはすごくいいチャンスだと思ったから。

２．活動のなかで一番記憶に残っていることはどのようなことでしょうか。

・１回目に付箋に意見を書いて話し合ったこと。
・グループの意見をまとめて原稿を作成していくこと。
・本番での突然の質問に答えたこと。
・意見交換時に、みんなの意見が細かく分かりやすくまとめられていて、「自分がこのように八王子を変えて見せる」という気持ちが伝わり、この活動に信念を持って行おうと思ったこと。
・発表後に市長と教育長からいただいた言葉。
・発表内容を主に何にするか、話し合ったとき、みんなが笑顔で話せたこと。

・グループの学年が上のお兄さんやお姉さんと話し合うのが楽しかったこと。
・市長・教育長の前で発言してすごく緊張したこと。
・第２回のワークショップでの話し合いの時、いろんな意見を知れ、互いに褒めあったこと。
・自分の意見についてアドバイスなどを互いに言い合ったこと。

３.「子ども☆会議」に参加した感想を自由に書いてください。

・本番は、とても緊張したけど頑張って発表できて良かったです。
・他のグループの意見もどれもすごくて驚きました。自分たちが知らなかったイベントのことを知れて参加してみたいと感じました。
・コロナ禍で、一昨年に比べて、活動が縮小されていたけれど、原稿を持ち寄って意見をまとめるのに十分な時間があり、丁度良かったです。来年は参加できるかわからないけど、できるだけ参加したいと思います。
・友達と交流してまとめた意見を、市長・教育長に向けて発信することは、なかなかない機会だったので、良い経験になりました。ミライの八王子について話し合うことは、今後のミライを作る練習になったし、楽しかったです。来年もぜひ参加させてもらいたいです。
・一人一人、誰かの意見は必ず尊重しあい、互いに高めていけるような仲間の集団活動が楽しかったです。本番では、親や先生に見守られながらグループの意見をしっかりと伝えることができて良かったです。
・学校のあいさつキャンペーンや取り組みは、自分たちでできることに限られているので、今回の会議はスケールが大きくても全く問題ないところが嬉しかったです。また、自由に考えることができたが、他にも考えたいことが多くあり伝えきれなかったことが悔やまれます。学校とは違った取り組みだったのでとても新鮮でした。他校の他学年との交流もできて収穫があったので、今後も学校の取り組みにも生かしていきたいと思いました。
・みんなが明るい雰囲気で良かったです。
・少人数でとてもやりやすかったです。
・一人一人がしっかりと意見が言えるのが良いと思いました。
・進行役の先生が優しくて、明るいため話しやすかったです。
・最初は緊張していたが、他の意見も聞くことができて良かったです。
・自分の考えを市長・教育長に提案ができたので八王子がもっと良くなってほしいと思います。
・難しかったけど楽しくもありました。また参加したいです。
・子どもの意見を真剣に聞いてくれるから嬉しかったです。
・本番での受け答えがとても楽しかったです。

・本番は、今年の中で一番緊張しました。
・自分の意見を発表することができて良かったです。来年は自分たちでパワーポイントも作成してみたいです。
・今回、初めてリーダーをやったため緊張したが、最年長としてしっかりと意見を言うことができました。
・話し合いが充実していて楽しかったです。
・自分の意見を言葉にまとめて、他の人に伝えていくことで、「外交官になる」という自分の夢の第一歩を前にいくことができたと思います。その場所の問題点と自分の体験を重ねてある大きな目標につなげるのが楽しかったし、良い経験ができたと思います。
・市長・教育長に提案することは、最初はとても難しいことだと思っていましたが、みんなと一緒に考えたら思っていたよりも難しくありませんでした。

（代表のあいさつ）

私は、子ども企画委員の高校２年生です。
今回の「子ども☆ミライ会議」の参加している子ども企画委員を代表してあいさつをいたします。
私は中学１年から現在まで子ども企画委員として、「子ども☆ミライ会議」に参加をしています。
私たちが住むまちについて考えることはとても大切なことだと思っているからです。
今回は、小学５年生から高校２年生まで 20 名の子どもが集まり、2040 年の八王子のまちをイメージして意見と提案をいたしました。
市長・教育長は、私たちの意見と提案に真剣に答えてくださいました。大変にありがとうございます。
子ども企画委員の一人一人は、「八王子はわたしたちがつくるまち」との自覚をもって検討をして、意見表明いたしました。
ぜひ、今後のまちづくりに意見と提案を活かしていってほしいと思います。
これで、代表の挨拶を終わります。

11　子ども企画委員の提案意見

＊子ども企画委員の提案原稿のまま記載しています。

（意見・提案 一覧）

１グループ	年齢、性別、障がいに関係なく来れる公園について
２グループ	安全パトロールカーの増台について
	犯罪や防犯に関する講習の実施について
３グループ	動画やポスターを使った挨拶啓発について
４グループ	高尾山の奥高尾の PR について
５グループ	シェアサイクルを活用したまちづくりについて

１グループ「年齢、性別、障がいに関係なく来れる公園について」

私たちの提案は、公園の中にカフェや図書館などの施設があり、年齢、性別障がいに関係なく利用できる場所があるといいと思いました。

例えば、安全な遊具があったり、屋内でも遊べたり、球技のできる広場があればいいと思いました。

また、駐車場や救護室があればいいです。

なぜそう思ったかというと、カフェや図書館があると子どもだけが遊べる公園ではなく、大人も楽しめる公園になると思ったからです。

そして、最近、球技のできる公園が減ってきていますが、球技ができればルールを破らずに過ごすことができると考えました。

駐車場があれば遠くから公園に来ることもできて、救護室もあれば、子ども連れの親は安心して遊ぶことがでできると思います。

子どもと大人が交流でき、仲良く楽しんで過ごせる八王子になればいいと思います。

２グループ「安全パトロールカーの増台について」

私たちの要望は、安全パトロールカーを１年につき、１台ずつ増やすことす。現在の安全パトロールカーの台数は４台です。

小学校周辺もパトロールをすると考えると、70 校の小学校があるなか、４台しか安全パトロールカーがありません。

そのため、私自身も普段、安全パトロールカーを見ることは、ほとんどありません。

夜の道を一人で歩くときも、もちろん周辺に安全パトロールカーが回ってい

ることを見ることがないので不安になります。
　子どもが不安になるということは、安全パトロールカーの効果が薄いのではないでしょうか。
　現在の４台という現実から、70 校の小学校のうち３校の周辺地域に１台の安全パトロールカーが巡回しているようにしたいと思いました。
　３校周辺に１台巡回してもらえると、小学生やまちの人々が前より安心して生活することができると思います。
　2040 年までに、この意見を実現させるためには、１年につき、１台の安全パトロールカーを増やしてほしいです。

２グループ「犯罪や防犯に関する講習の実施について」

　2040 年に犯罪や防犯について、深く理解している人を増やしたいと思っています。
　そのために、犯罪や防犯に関する講習を行うことを提案します。また大勢に理解してもらいたいので、義務教育学校の小学１年生と４年生、中学２年生に犯罪や防犯に関する講習を行ってほしいです。
　犯罪者になる人を防ぐために、犯罪知識や防犯知識を伝える。また、防犯ブザーの使い方や大切さも伝えられるようにしたいです。
　そして、防犯ブザーの配布も行ってもらいたいです。

３グループ「動画やポスターを使った挨拶啓発について」

　私たちの提案は、動画やポスターを使って、「若者からお年寄りまでに、挨拶をしていない」と気づくきっかけにしてもらうことです。
　動画は、八王子市の公式チャンネルの「Hachioji City Office」を使って、ストーリー仕立てにしたいです。
　動画には、八王子市民の小学１年生までの小さい子を入れて問いかけたいです。
　ポスターは八王子市の学校から募集した標語を使って、「あなたのみちをあるけるまち八王子」のポスターが貼ってあるようなぐらい、大きく、たくさん貼りたいです。
　以前、学校の近くのバス停で、10 人程バスを待っている人がいたので、「おはようございます」と声をかけましたが、一人も挨拶をしてくれませんでした。
　小学校の挨拶キャンペーンはたくさんしているので、対象を大人にするといいと思いました。

多くの人が自分からあいさつをできるようにしたいです。それによって、たくさんの人が笑顔になる明るいまちになると思います。
笑顔あふれるまちにするために、まず自分があいさつをしているか気づくきっかけを作ることが必要だと思います。

４グループ「高尾山の奥高尾のPRについて」

高尾山の奥高尾に焦点を絞って考えました。まず、奥高尾には美しい景色や美味しい茶屋などがあるのですが、実際の行き方を知らない人がとても多いです。
「奥」や「裏」という言葉には「田舎っぽい」、「遠そう」というイメージが根付いてしまっています。
しかし、奥高尾は、高尾山を登っている道中の景色とあまり変わらず、近くて、とても手軽に行くことができます。
奥高尾の代表的なものといえば、「もみじ台」の「細田屋」というそば屋や、春は「一丁平」の桜、「小仏城山」からの景色等があります。
奥高尾に行ってくれる人を増やすために、まず道に迷う人が減るように看板を増やします。
長年廃れないyou tube でyou　tuberやインフルエンサーにお願いしたり、PRしたりしてもらうことで効率的に人を増やせると思います。
実際にイベント開催をするより、芸能人が高尾山に行った番組放映の次の日は、混む傾向があります。
また、奥高尾のキャラクターを作ることも登山者の増加につながると思います。こうして、裏高尾への登山者を増やしていきたいです。

５グループ「シェアサイクルを活用したまちづくりについて」

まずは、交通機関のシェアサイクルについてです。シェアサイクルで市内観光名所をめぐったり、走行距離に応じてポイントがたまる仕組みを作ったりします。
そのポイントで、市内で使える商品券や八王子ならではの自然や農業、工業の体験に参加できる権利と交換できると良いと思います。
シェアサイクルを利用する理由の一つは、自転車は、二酸化炭素を排出しない移動手段で、環境にやさしいからです。
バスや自家用車に乗らないことは、環境のためだけではなく、運動にもなり健康にもいいと考えました。
もう一つは、八王子市がシェアサイクルの実証実験をしているからです。市

内 37 か所にサイクルポートがあります。
サイクルポートは、自転車を借りる場所でもあり、返す場所でもあります。借りたポートと返すポートが異なってもいいので、移動のために自転車を使うことができます。
このポートを、2024 年までに、市内で 200 か所、設置する目標を立てた計画があるそうです。
しかし、子ども用の自転車がないので、家族での利用ができないのが、課題だと思います。
よって、小学校で自転車教室が開かれる小学３年生くらいから乗ることができる小さめの自転車も用意したいと思います。
そして、安全に自転車に乗ることができる道路の整備も必要だと思います。参考にしたのは、相模原市内の国道 16 号線にある自転車道です。
歩道、自転車道、車道と完全に分かれており、とても安全です。この自転車道を、八王子市にもたくさん作って、みんなが、安全に自転車に乗れる環境を整えたいと思います。
シェアサイクルを使うと、ポイントがたまるようなシステムも作ります。観光地をスタンプラリーのようにめぐることで、ポイントがたまり、子どもはポイントが２倍になって、家族で合算ができると、家族での利用が進むと思います。
市民ではない人にも、まちをフィールドにしてゲーム感覚で参加してもらえたら、盛り上がると思いました。
市民ではない人には参加費をもらえば良いと思います。以上が交通機関のミライです。
次は、駄菓子屋のような子どもだけが利用できるお店や値段の安い品物がそろっているお店の設置です。
このお店の設置場所は、商店街など地域に密着した場所が良いと考えます。商店街には、閉まっているお店が多くなってきていると思います。そのテナントを市が買います。そこで、子どもが気軽に通えるお店を作ったらどうかと思います。
そうすることで、子どもたちが、商店街に行くようになり、大きくなっても商店街に通い続け、長期的にまちの活性化につながると思います。
さらにこのお店ではシェアサイクルのポイントを使って、買い物をすることができれば良いと思います。

令和3年度（2021年度）子ども☆ミライ会議報告書

発行：八王子市子ども家庭部

令和4年（2022年）5月

〒192－8501

八王子市元本郷町三丁目24番1号